

長畝ふるさと通信

【2019年11月号】

■ 第14回 収穫感謝祭を盛大に開催

11月30日、今年も収穫感謝祭を開催しました。春先は比較的温暖な天候が続き、苗の初期生育も良く順調に見えましたが、お盆過ぎの異常高温で登熟が進まず、計画反収(8俵)には及びませんでした。乳白粒等の未熟粒が多くみられ、連日夜中の2時まで色彩選別機をフル稼働させて、トキ認証米の要件である「一等米」に仕上げました。コシヒカリの平均反収は7.61俵(前年は過去最低の6.26俵)、初めて栽培した「新之助」は7.7俵ありました。大雨や台風被害で農作物に甚大な被害を受けた産地に比べたら誠にありがたい天の恵みです。感謝、感謝…という訳で収穫感謝祭です。

● 佐渡の田んぼが目指してほしい事

今年は「佐渡生きもの語り研究所」の大石麻美さんに講演をお願いしました。大石さんはトキの田んぼを通じて佐渡の子供たちに環境学習を広げる「佐渡キッズ生きもの調査隊」の活動をしています。環境省とトキの生態に関するプロジェクトにも参加しており、トキに関するコアな情報もたくさん披露してくれました。

トキの平均的な体重は1.7kg、両翼を広げると1.4メートルもある。1日に必要な摂取カロリーは325Kcalで、ドジョウなら1300匹、カエルなら65匹食べなければいけない。だから1日のほぼ大半を田んぼや畦での採餌行為に使っている。現在佐渡で生息するトキは430羽、エサ場となる田んぼが現状維持されるなら1500羽まで生息できる。だから、佐渡のコメ生産者は田んぼを守って、いつまでもトキと共存できる島でいてほしい！…熱いメッセージでした。前列に並んだ子供たちの真剣な顔が印象的でした。



● 復活、もちつき大会



こんな田舎でも「臼・杵」を使った餅つきはほぼ全滅し機械化されてしまいました。数年前までは集落の人から臼・杵をお借りしてもちつきをしていましたが、最近では拝借できる臼・杵も無くなり、断念せざるを得ない状況でした。何とかならないか…の声にお応えして…



アマゾン通販で買ってしまいました。我々の概念からすると「おもちゃ」のようなサイズ感ですが、立派な1.5升用だそうで…悪戦苦闘しながらも子供たちは大喜びで、「次はボク、次はワタシ、次は…、次は…」状態で合計3升のもちをつきました。つきたてのモチはすぐにあんこやきな粉に

丸められ、激しい争奪戦が繰り広げられました。これが田舎の子供のDNAなのだ。

● 目指せ、100歳

大正、昭和、平成、令和の4時代を生きてきた大先輩もご健在。95歳になったお二人は今でも畑仕事に精を出す現役ファーマーで、「白菜やら大根やら欲しかったらいつでも勝手に持っていけ」と有り難いお言葉。ところが翌日の早朝には一輪車に白菜と大根をどっさり積んでわざわざ家まで持ってきてくれました。催促したわけじゃありませんが、感謝、感激です。100歳まで現役でいてください。



● 100人鍋、今年も作りました

里芋や白菜、キノコなどたっぷりの野菜や豚肉から出る出汁のおかげで、調味料は醤油だけ。これだけの鍋でなければ出せない旨味の鍋です。誰でも作れるごく簡単な鍋ですが、1年で一度しか味わうことのできない鍋でもあり、14年間作り続けるボクの鍋でもあるわけです。レシピも何もありません。材料もその時々で頂いた野菜を使うだけ…だから毎年違う味。お米と一緒にです。同じものは二度と出来ません。だから美味しいんでしょうな。



■ 佐渡の田んぼが目指すこと

「佐渡でしかできない農業を目指せ」と言われますが、佐渡でしかできないことは佐渡でしかできないわけで、佐渡でやれたことを全国でやれるようになったらいいんじゃないかと思う次第です。

さて、それは何でしょうか…